

神様の賜りしもの

杵島 節子

今年は一月の中国武漢から始まったとされる新型コロナウイルスに世界中が翻弄される一年になってしまいました。

毎年十月ごろになるとインフルエンザの予防接種をするように、私達にはウイルスはおなじみです。実は普通に罹る風邪も、インフルエンザも、原因はウイルスです。インフルエンザに対してはワクチンを接種しております。ワクチンを接種してもインフルエンザに罹ったとか、罹っても軽かったとか、いろいろな声を聞きます。ワクチンの効果は百%ではありません。

今回の新型コロナウイルスはその名の示す通り、新たに発生したウイルスです。そのウイルスの性格も特性もわかっていませんでした。ウイルスの側も自分が感染した細胞にどう対応するかわかっていません。私たちの身体は四十兆個の細胞で作られているといわれています。以前は六十兆個と言われていました。こうした変化も、スーパーコンピュータができて可能になったことでしょう。人間の築いた科学には絶対という回答はないとつくづく思います。

細菌、ウイルスが全てヒトに悪影響を与えているわけではありません。皮膚は人体で最大の臓器と言われています。この皮膚には表皮ブドウ球菌をはじめ、代表的な細菌が三種常在します。その中の表皮ブドウ球菌は汗や皮脂を餌にグリセリンや脂肪酸を作り、脂肪酸は皮膚を弱酸性に保ち、黄色ブドウ球菌の増殖を防ぎ、グリセリンは、皮膚のバリア機能を保つ役割をしています。ある種のウイルスは常に私たちの身体の中にある常在ウイルスです。健康な人に

も少なくとも三十九種類のウイルスが常在し、体調が良ければ症状が出ることなく過ぎてゆきます。様々な組織に感染するヘルペス、肝臓にはC型肝炎ウイルス、また胃にも高い割合でウイルスが存在します。様々なウイルスが健康な人の体内において不顕性感染しており、人の免疫状態や健康状態に関与している可能性があります。

ウイルスと細菌の違いを見ると、ウイルスは細菌の五十分の一の大きさです。また、細菌は自分で増殖できます。でも、ウイルスは生物の細胞がなければ増殖できません。新型コロナウイルスにとっても、ヒトの細胞は必須なものです。ヒトの細胞がなくなったら増殖できず、そこで新型コロナウイルスは終わってしまいます。何回かの流行の後、最終的には弱毒化して、ヒトと折り合いをつけるのでしょうか。

私たちにできることは、マスク、手洗い、そして免疫力を付ける為のバランスの良い食事と適度な運動、そして良質な睡眠を心がけることしかありません。アルコール消毒はあまり頻繁には行わず、手の常在菌を守りましょう。帰宅時、調理の前などはアルコール消毒も必要ですが、あとは水道の流水で充分洗うことでウイルスも落ちます。

毎年起こる自然災害、新型コロナウイルスのパンデミックとすべての人間の傲慢さへの警告に思えます。

報 告

*十一月一日の「聖徒の日」主日礼拝後、昨年度、天に召された日野菊子姉、松井容子先生、北澤良夫先生を覚えて祈りを捧げました。

*先のイースターに行く予定でした復活日

墓前礼拝は、可能ならば秋に実施すべく延期しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、本年度は見送ることといたしました。

神は何を言おうとしているか。十七章「右手」は何か。意味するものは十九章 祭司の王国、聖なる国民とは何を言おうとしているか。シナイ山で神のしるしを見た民は、何に気付かされたか。等々、牧師の解説を受け、学んだ。

《各部報告 十一月度》

成人会

日時 十月十八日 十三時～十五時
場所 教会堂会議室
出席者 四名
開会祈禱 下奥敏子姉
内容 出エジプト記十一章～十五章
出エジプト記で一番重要な部分。「過越祭」と「除酵祭」は一体化している。「除酵祭」は、イスラエルの民がエジプトを脱出した日で、エジプトでの奴隷の生き方を捨て、神と共に生きることを決めた日である。「過越祭」で子羊を捧げたが、現代ではイエス・キリストが私達の「罪」を代わりに贖ってください。この二つの儀式は、「パンとぶどう酒」という「聖餐式」へと変化してきた。

婦人会

日時 十一月二十二日 主日礼拝後
場所 教会堂会議室
出席者 八名
開会及び閉会祈禱 菊池才知子姉
内容 サムエル記上二十九、三十、三十一章
イスラエルと戦うペリシテのガトの王アキシュはダビデを伴い、遠征に向かった。ヘブライ人のダビデを信用できないペリシテの武将たちは戦闘中の裏切りを恐れて、ダビデを追放させる。

次回 十一月十五日、十六章～十九章
次回司会 佐藤忠昭兄
黙祷をもって閉会

ダビデがツイクラグに戻る前にアマレク人が町を襲い、破壊してダビデやその兵たちの家族を連れ去っていった。ダビデは主の託宣に従ってアマレク人を追跡する。ダビデはアマレク人略奪隊追跡し、400人の若者を除いてアマレク人を打ち、すべてを取り戻したうえ、戦利品として羊と牛を奪った。

日時 十一月十五日 十三時～十四時
場所 教会堂会議室
出席者 五名
開会祈禱 佐藤忠昭兄
内容 出エジプト記十六章～十九章
十六章 マナとは何か。マナの摂取を通し

ペリシテ軍との戦いでサウルと3人の息子、兵たちは皆死んだ。イスラエル人は町を捨てて逃げ出した。ペリシテ人がさらし者にしたサウル親子の遺体を、ヤベシユ人は丁重に葬った。
次回 「サムエル記 下」
クリスマスカード作成の打合せ